

## 電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、インターネットを通じて個人の端末や身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図るとともに、国内外の誰もが利活用可能な知識基盤の構築を目指します。

また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

### 電子情報事業に係る企画・研究



デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、所蔵資料のデジタル化を推進するとともに、デジタル情報の長期保存等、国立国会図書館の電子情報事業に係る計画の立案や関係団体との調整を実施する。外部機関との連携協力を推進し、国の事業である多様なデジタルアーカイブの検索・閲覧・活用プラットフォーム「ジャパンサーチ」の開発・運用も担当する。「NDLラボ」では次世代の図書館システムを開発するための調査研究や実験も行う。

### 情報資源へのアクセス提供



所蔵資料の検索・申込みができる「国立国会図書館オンライン」、全国の公共図書館や学術機関のデータベースを横断検索する「国立国会図書館サーチ」、震災記録のポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなざく)」等を開発・運用し、様々な情報資源へのアクセス手段を提供する。

### 情報システムの開発・運用

「国会会議録検索システム」や「日本法令索引」等の国会関連情報を管理・提供するデータベース、公式ホームページ、資料の収集・整理等の業務のための情報システムを開発・運用する。国会向け・一般利用者向けの各種サービスの提供と業務の遂行をシステムインフラの構築と運用により支える。



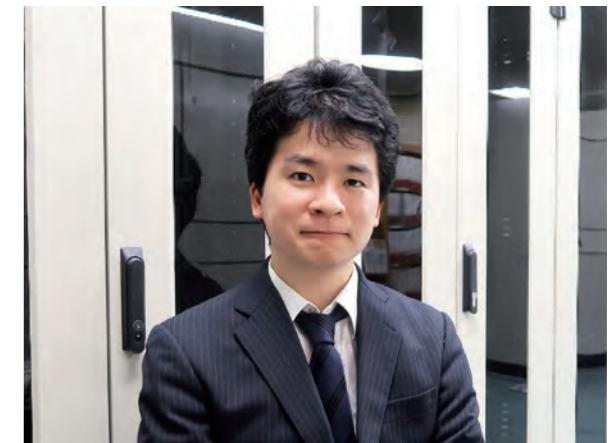
## 図書館のエンジニアとして次世代サービスを考える

### 青池 亨 電子情報企画課

私の所属する次世代システム開発研究室(次世代室)は、新しい図書館サービスを実現するために、国立国会図書館のデータ資源を活用した機械学習研究及び実験サービスの構築、ジャパンサーチの開発、デジタルデータの長期保存の調査といった業務を行っています。

国立国会図書館は、デジタル化資料や書誌データ等多岐にわたるデータ資源を持っています。それらを加工して機械学習用データセットとして整備・公開する、また整備したデータセットを利用して調査研究やプログラム開発を行い、成果を論文やオープンソースソフトウェアにするといった、図書館界、学界そして社会に新しい付加価値や活用方法を提供するための取組を進めています。

最近では、全文検索等の実現に向けて、国立国会図書館が令和2(2020)年度までにデジタル化した資料約247万点(約2.2億画像)についてOCRという技術を利用してテキスト化する事業と、令和3(2021)年度以降国立国会図書館がデジタル化する資料に利用するためOCR処理プログラムそのものを研究開発する事業の2つを



担当しました。得られた全文テキストデータを活用した実験サービスの開発も行い、成果の一部は「次世代デジタルライブラリー」や「NDL Ngram Viewer」として公開しています。

私は入館当初から現在に至るまで次世代室に所属していますが、システムへの機能実装、プログラム開発を伴う実験、システムインフラの運用、論文執筆や学会発表といった幅広い業務を経験しました。サービスの利便性を高めるための高度な先端技術の追究と、館内外に向けた成果の発信が奨励される非常に活気ある職場だと思います。

先人の知識の蓄積である国立国会図書館の膨大なデータ資源について、その活用方法を技術面から検討することは興味深く、意義あることと考えます。「えっ、こんな仕事もあるの?面白そう!」と思った貴方、一緒にやりませんか?

### 学生時代の専攻

生物測定学

### Career

H29.4 電子情報部電子情報サービス課  
次世代システム開発研究室  
(H30.4 同 電子情報企画課  
次世代システム開発研究室に組織再編)



2つの画面を使い分けながら作業